

進路だより

北九州市立小倉北特別支援学校
第29号
平成25年12月13日(金)
進路担当 富田邦裕・稲津靖子

卒業生のように「星の子作業所」

11日(水)に「星の子作業所」へ伺いました。

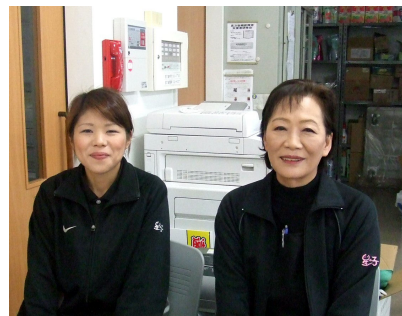
代表の岸さんからは、ケアホームで過ごす利用者への支援や本校生徒の将来に気遣いされる話が聴けました。

就労作業は、商品の梱包や袋詰め、おでんや総菜のシール貼りなどを行っています。利用者は体調管理に気をつけながら頑張っているそうです。

放課後等デイサービスの送迎にいつも来られる山崎支援員さんからは、生活介護の紹介をしていただきました。先日は、夜宮公園にどんぐりや松ぼっくりを拾いに行き、クリスマスリースの飾り付けをしたそうです。

調理では、なんとシュークリームを作ったとのこと。驚きです。

慰安旅行やボウリング大会、月ごとに楽しい行事が盛りだくさんで、利用者が仲良く活動している様子が伝わってきました。



昼食時間になったので、生活介護の部屋に案内していただきました。

本校で小学部のころから過ごした先輩たちがいました。

原田雄一君は大きなお弁当を食べています。時折、隣の先輩にちょっかいをかけるので先輩から叱られていました。

「富田先生！お仕事がんばっています」と声をかけてきたのが辰田



智美さん。お母さん手作りのかわいいお弁当をほおばっています。明るい表情がすてきでした。嬉しい気持ちになり、学校へ戻って二人のお母さんに電話を入れてみました。

辰田さんからは、「旅行を始め、いろいろな行事を体験させてもらい、よい刺激になっています。毎日、弁当も空っぽになって笑顔で帰ってくるので、プラスアルファの気持ちです」との返事でした。

原田葉子さん(母)からは、「なんか、学校に行っていた頃よりも楽しく行ってるんですよ。朝はぐずることもありますが、利用者の方が玄関先に迎えに来ると自分から着替えて出て行くんです。好き嫌いもなくなっていて、お弁当を残すこともなくなりました。雄一にとってはいい選択でした」とのことでした。



生活介護と言っても作業があるので、辰田さんや原田君も家を出る時は「出勤」ということになります。進路担当からは、利用者に対して、まず「仕事」をしに来ているのだという意識づけができるようにとお願いし、岸さんにも理解していただいています。

何でも一人でできることが「自立」ととらえられますが、「しょうがい」のある子どもたちにとっては、本人のニーズと適切なサポートで「自立」ととらえるべきです。通勤や居住、食生活、医療・保険、衛生管理などの支援もしっかりとできると、安心して暮らせます。「星の子作業所」の取り組みに心が温まりました。